



威密國家屋價定條例

1-15
杯
二

32



114
A3617
2

大正十一年四月

山縣良藏 譯



ヨイマル大公國官立火災保險局ノ用ニ供スベキ為メ同
國地方會計廳ニ於テ執行スベキ一般家屋價定條例ハ一千
六十二年ヨイマル
國印書局印刷

往キ一ハ一千八百二十六年八月二十八日ヲ以テ制定セラレタ
ル官立火災保險律ニ本ツキ凡ソ一般家屋價定事務ヲ之レカ為
テ特ニ補任セラレタル委員ニ命付テ執行セシメラレタリトイ
ヘレ令後ハ大抵時有リ非常ノ場合トシ此規則ニ依ルベカラ
ザル時ヲ除ク外之レヲ地方會計官ニ課シテ各々其ノ轄限リ施
行セシムベキ旨令者確定ニ付セルヲ以テ該官ヲシテ其要領ヲ
体認シムベキ為メ更ニ左ノ條々告示ニ及フモノ也

第一條

ヨイマル大公國一圓ニ係ルカ或ハ一千八百五十九年五月十三

日、成法附録第三條ヲ参考スヘシ唯タ一所乃至一地方ニ止ル
ニ論ナリ凡ソ大公國云ワイマール國ヲ大改官ヨリ一般家屋價定ノ
布令ヲリタル時ハ各地方會計官ハ先ツ茲ニ使用スヘキ工匠大
及壁ヲ換擧シ一千八百二十六年八月二十八日ノ成法第十九條
之レニ其職務ヲ授クベシ
此換擧ヲ為スニ方テハ各々其職業ニ充分練達シ殊ニ正廉ナル
者ヲ得ベキトニ注意スベシ
某地若クハ某地方ニ於テ同上ノ為メ補任セラレタル工匠已ニ
須安ノ負ニ充テ且ツ會計官能ク使用スルニ足ル者ト認定セル
時ハ該匠ヲ同律第十九條ヲ参考スベシ以テ價定ノ事務ニ取極
メ置クトヲ得ベシ

第二條

廣濶ノ縣ニ在リハ棟梁及ヒ壁匠トモ各一名ヨリ多ク價定師ト

ニ補任スルヲ以テ違宜ト為スベキヤ否ハ一ニ地方會計官ノ意
見ニ任スベシ

第三條

曾テ價定工匠タリシトノ確証ヲ有セサル者ヲ地方會計官新ク
ニ換擧シテ此地位ニ補スル時ハ卷末ニ掲載セル式ニ從テ誓約
ヲ為スベシ凡ソ斯ノ如クシテ補任スルニ方テハ該人ノ誓詞ヲ
登記シ雙方連署ノ上價定書類ト共ニ之ヲ納蔵シ置クベシ
其他地方會計官ハ未タ價定事務ヲ始メザル内已ニ保險法ノ意
義ヲ充分承了セシムベキ為メ各價定工匠ニ本條例及ヒ火災保
險律ノ抜抄一部ヲ交付シ置キ兼テ又全價定工匠ニ特ニ其職務
ニ關シ詳細ノ法則及ヒ此條例ニ奉クル箇條ニ本ツキ尚ホ懇切
ニ口授スルヲ要ス其他凡ソ一千八百二十六年八月二十八日ノ
成法第二十條ニ掲クル定規ニ從テ之ヲ取扱フベシ

第四條

家屋價定上ノ指揮同律第十九條中之ヲ詳ニスハ大公國地方會計官ノ管掌ニシテ該官ハ終始價定工匠ノ業ヲ監査シ保テ教示釐正確定同律第二十一條ニ記載セル如ク等ヲ加ヘ之ニ関涉スベキモノトス而シテ一千八百二十六年八月二十八日ノ成法第十九條乃至第二十一條中價定委員ノ為メニ制定セラレタル各條規ハ今者總テ右會計官ノ遵守スヘキトトス故ニ會計官ハ密ニ注意シ價定工匠ヲ必ス其義務ヲ履行シ凡ソ家屋價定及ヒ同律第三款ヲ參考スベシ家屋分等ノ際ニ臨シテハ一ニ成法ノ文字及ヒ意義ニ憑拠セシムルヲ要ス若シ又之ニ支吾スル者アル時ハ必ス其失誤ヲ罰シ速クニ之カ釐正ヲ加フベシ

第五條

凡ソ何等ノ家屋ハ全國火災保險局ノ請合ニ預ルベキ義務ヲ免

カレ得ベキヲ又何等ノ家屋ハ此請合中ニ加入セラルル容カラサルカ故ニ亦價定スヘカラズハ先ツ一千八百二十六年八月二十八日ノ成法第二條中ニ定ムル所ニ拠ル但シ然ルハ左ノ條件ニ注意スルヲ要ス

第一項 瓦製造場ハ一千八百五十一年六月十一日ノ成法頒布已後ハ凡ソ同律ニ記載セル豫定ヲ具備スルニ於テハ全國火災保險局ノ請合ヲ受ケ得ベシトイヘ凡果シテ然ルハ必ス先ツ新價定ヲ受クルヲ要ス

第二項 菓實乾燥場ノ保險ニ関シテハ已ニ一千八百四十三年四月二十六日大公國地方事務廳布達一千八百四十三年四月廿四日國各週新報第三十八号及ヒ同年五月廿八日國各週新報第三十六号中ニ之ヲ記載スヲ以テ其要件ヲ確定セリ

第三項 若シ又一千八百二十六年八月二十八日ノ保險律第二

條ニ特別ノ名称ヲ為サス唯々全國火災保險局ノ請合ニ預リ
得ベカラザル家屋トシ記載セシモノハ工業製作場ノ謂ヒニ
シテ手職及ヒ通常市中營業者ノ職業場ニ反シ非常ノ強火力
ヲ要シ或ハ殊ニ火災危險ノ物件ヲ取扱フ場所ヲ指スナリ
従来已ニ各地方會計官ヘ布達シ置キタル或ハ將來尚ホ布達ス
ベキ制令ノ意義ニ本ツキ凡ソ各自家屋中單ニ火災危險ノ性質
ヲ有セザルモノ則チ紡績所ノ如キハ今後猶ホ其豫定ヲ充實セ
ルカ或ハ此布令ヲ取消スマテハ全國火災保險局ノ請合中ニ差
置キ或ハ更ニ該局ノ保險中ニ加入スルヲ准許スルカ故ニ右
等ノ如キ建築更ニ全國火災保險部内ニ加入セラレ或ハ従来ノ
如ク其部内ニ差置カレ得ベキ定規ニ充分且ツ終始適合スルニ
於テハハ更ニ新價定ヲ要ストイヘ其價定ヲ為スニ方リ同律
第十三條ニ記載セル規則ノ違格トシ同家屋内ニ具列セル製作

器械等ニハ關係アルヲナシ設令ハ紡績器械之レナリ夫レ這的
ノ物件ハ將來猶ホ全ク保險局ノ管預ナキヲ以テ亦其價定ヲ要
セザレバナリ
同律第二條ヲ各種ノ場合ニ擬行スルニ方リ不明ノ廉アル片ハ
其都度各地方會計官之ヲ當寮ヘ伺出ヘシ

第六條

成法中ノ定規及ヒ意義ニ本ツキ同律第十二條以下家屋保險價
ヲ明確正當ニ考定スルニ方テハ左ノ條款ヲ以テ須要ノモノト
ス
第一 各家屋ヲ精密ニ審査吟味シテ凡ソ其大小建築方内部
ノ構成及ヒ性質且ツ現今居住ノ有様等ニ從ヒ各自ノ價定
ヲ為シ之ヲ登録スベキ事
第二 家屋中ニ存在セル建築材料ノ諸種性質大小是ニ其運

搬精製ニ供マシ費用等ニ從テ定ムベキ價格其他該家屋價
定ノ時ニ於ケル物價ヲ以テ更ニ之ヲ新築セバ其代價幾干
ナルベキヤヲ算定スル事

價定ヲ行フ各地方及ヒ一地方内トイヘド勿論許多ノ差異
アルモノナレハ各地ニ於ケル諸種家屋ノ新築費如何ニ付
テハ價定職工精密ナル見積書ヲ調製スベシ而シテ此見積
書ニ本ツキ凡ソ各種ノ建築方或ハ其他ノ狀況ニ關シ家屋
ニ應シ建築卒面每一ブリス角ニ要スル所ノ入費幾許ナル
ヤヲ認定スルヲ要ス

而ル後々更ニ又右ニ掲クル方法ヲ以テ算シ得タル割合ニ
從ヒ其他精細ノ形状ヲ適切ニ稽查シ殊ニ家屋ノ固表ニ着
目シテ凡ソ同種類ニ係ル他ノ家屋新築ニ要スル入費ヲ價
定スベキ事

第七條

前條ノ如クシテ家屋新築費ヲ確定シ了ヘタル時ハ更ニ尤ノ如クス

第三 現今ノ價格ヲ確定スベキ事

家屋現在ノ價格ヲ知ルニハ須ラリ先ツ当初茲ニ支用セシ

新築費中ニ就テ從來該家屋建築材料及ヒ建築上ニ施セシ

精功ノ衰替セシ總計ヲ引キ去ルベシ

但シ此總計ヲ確定スルニ方テハ當ニ家屋經過ノ年數ノミ

ナラズ其他尚ホ家屋ノ損耗ヲ生スベキ事由ニ着目スルヲ

要ス設令ハ本末ノ建築方居住ノ構成使用ノ性質塲所基礎

組立、等ノ如キ之レナリ

該家屋新築費ヨリ從來施用衰替ノ總計ヲ引キ去リ其ノ残

額ハ則チ價定ヲ行フ時猶ホ遺存セル該家ノ實價現價

トス

第八條

凡ソ家屋外殊ニ偶然ノ狀況〔場所住民粗密等ノ如キ〕ニ關シテ上
下スヘキ賣買價及ヒ利用價ハ火災保險ノ目的ヲ以テ行フ處ノ
家屋價定上ニハ毫モ注意シ未ルヲ要セズ各各地所ニ屬スル
權利假令ハ麦酒釀造權酒類小賣營業權等ノ如キハ齊シク爰ニ
着目ヲ要セサルモノトス

第九條

凡ソ家屋竅下階ノ坐板下更ニ詳言スレバ現在セル或ハ通常散
ク存在スベキ竅室〔地下室〕上ニアル所謂「バルテ」敬層ノ高階ヲ
有マシ有マシ家屋竅
間下ノ住
ヲ云下ニ存在セル各壁牆類ハ總テ之ヲ同律第十四條ノ意義
ニ循ヒ基礎壁牆トシ價定部内ニ算入スベカラズ
是故ニ最下階ニ於ケル林板ノ地位ハ價定スベキ壁牆ト價定ス
ベカラザル壁牆ノ經界ヲ為スモノナリ而シテ林下内部ノ區劃

ニ供マシ壁牆時有テハ〔設ヘハ収獲物細置等ニテ屢ニ之レア
ル如ク〕最下階ノ林上ニ現出スルトアリ若シ然ルハ此基礎若
クハ區劃壁牆ノ粘エヲ以テ築造セル家屋ニ在テハ惣テ其支荷
壁牆ノ凡ソ竅下階坐板上ニ現出セルモノハ全ク之ヲ價定スベ
キ事トス

第十條

價定セシ家屋ヲ其火災危殆ノ大小ニ應シ相当ノ等級ニ編入ス
ルニ方テハ一千八百二十六年八月二十八日ノ成法第三十三條
以下ニ確定セル條規ニ拠ルトイヘモ尚ホ左ノ條件ヲ注意スベ
シ

第一 一千八百二十六年八月二十八日ノ成法第四十條ニ記
載セル定規ニ從ヒ凡ソ寺院及ヒ寺塔ハ總テ火災危殆ノ度
ニ係ル等級ヲ分割スベカラザル事

アスハルトヒルツハナ
スルニヤン
成ノ如キニシテ
屋瓦ニ代用エリ
リ

第二 一千八百四十六年九月二十二日ノ火災保險追加條例

第一條ニ從ヒ凡ソ乾干セル粘土石及ヒ所謂壁土ヲ以テ築

造ルル家屋モ亦純石屋ト同視スベキ事

第三 一千八百五十九年三月三日ノ成法及ヒ其成法ニ本ツ

キ一千八百五十九年八月五日ノ布達(一千八百五十九年ノ

行政日誌第百五十七葉)ニ從ヒ石盤及ヒ所謂「アスハルトヒ

ルツ」ハ「警視局ノ許可ヲ以テ此物件ヲ使用セシ時ハ」火災危

難ノ等級ニ関シテハ瓦屋根ニ同視セラレ得ベキ事

第四 一千八百五十一年六月十一日ノ成法第五條中ニ掲ク

ル定規之レナリ但シ此定規ニ從ヘハ同律第二條中第一項

下アベ及セ号内ニ記載セル要件ヲ具備シ其他ノ事項モ亦

之レニ合フタル瓦製造所ハ火災危険ニ於テ第二等ニ編入

スベシ之ニ反シテ唯々同律第二項中ニ記載セル建築ノ豫

防ノミヲ備ヘタルモノハ「設」建築上他ノ性質ニ於テハ第

一等乃至第二等ニ属スルモノトイヘ「此」之ヲ第三等ニ編入

スベシ

従来火災保險籍へ登録セラレ目今猶ハ全國火災保險局ニ於

テ之レカ請合ヲ為スベキ製瓦場ハ右最後ノ規則ニ適合ス

ルヤ否ヲ新價定ニ因テ確定スベシ

第十一條

地方會計官ハ其地ノ家屋價定ヲ始ムベキ日ヲ豫メ其町村事務

所へ通謀シ供セテ同官及ヒ價定工匠一家屋所有ノ形状(所有者

ノ身分及ヒ攝内諸家屋所有ノ有様)共有人ノ全有若クハ数人ノ

関スル須要ノ告示其他凡ソ當時緊要トスベキ報知ヲ与フベキ

一ヲ依頼シ置クベシ(一千八百二十六年八月二十八日ノ成法第

十九條)

第十二條

價定工匠ヲシテ家屋價定及ヒ分等ニ関シ付コセラレタル定規
ヲ實際活用上ニ於テ亦精密ニ熟知スルノ機會ヲ得セシムベキ
為メ地方會計官ハ一府若クハ全縣ノ價定ヲ施行スルノ初日及
ヒ若シ猶ホ之ヲ須要トスル時ハ（ル他教日問本縣建築官ヲ引テ
此事ニ預ラシムベシ故ニ該官ハ此指令アルベキ為メ豫メ大公
國當繕察ハ其旨請求シ置クヲ要ス
建築官ハ規模、目的、経年及ヒ建築方等ニ関シ各種異様ノ家屋敷
多ニ就キ特ニ自ラ指揮シテ價定工匠ニ其價格ヲ定メ其火災危
殆ノ度ニ関スル等級ヲ分タシメ且總テ差ニ須要ナル成規定則
ヲ明示シ供セテル他ノ証例ヲ引テ説明シ能ク之ヲ會得セシム
ベシ

此間地方會計官モ亦親ラ其價定事務ニ立合フベシ

但シ其後ニ於テモ地方會計官ハ凡ソ工匠ノ為レ了ヘタル家屋
價定ノ当否ヲ査察シ其ニ職工ノ認定セル取扱方果シテ正當ナ
ルヤヲ確徴スベキ為メ己ムヲ得サル場合ニ於テハ親ラ其各地
ニ至ルヲ要ス

第十三條

地方會計長ノ住宅若クハ其別宅ニレテ凡ソ全國火災保險局ノ
請合ニ属スベキモノ若シ價定ヲ行フ地方内ニアル時ハ價定工
匠ハ該家屋價定及ヒ分等ヲ為スノ間ハ同會計官ノ指揮ニ由ラ
ス唯々同官ヨリ依頼ヲ受ケレ建築官ノ令ニ應シテ之ヲ執行ス
ベキノミ

第十四條

併ラ家屋ト共ニ價定セラレベキ各自物件ノ價ヲ定ムルニ方リ
價定工匠ハ時アリ其物体ニ関シ（仮令ハ寺院ノ塔、樂器、塔上時計、

粉挽車場全ク一種ノ術門ニ係ルヲ以テ價定ニ能ハサル旨ヲ陳述スベキ場合アリ得ベシ此場合ニ於テハ地方會計官ハ其價定ヲ右ノ建築官上ノ第十二條ニ記載セルニ依頼シ若シ又同官ノ意見アルハ持ニ補任セル許價者ニ付シテ之レカ觀定ヲ為サシムベシ但シ其成果ハ追考ニ供スベキ為メ價定工匠ニ展示スルヲ要ス

第十五條

價定セラルベキ家屋ノ所有主價定ノ成果ヲ以テ展示セラルベキヲ請求スル時ハ地方會計官及ヒ價定工匠トモ之ヲ拒却スバクテゾトイヘヒ凡ソ價定成果ハ後日定式ヲ以テ之ヲ公布シ一千八百二十六年ノ成法第五十一條スルモノニシテ然ル時ハ何時モ價定調一替ノ請求同律第二十五條ヲ為シ得ヘキ故ニ凡ソ其以前ニ係ル調替請求ハ地方會計官及ヒ價定職工トモ惣テ之

ヲ顧ルヲ要セス併ニ又家屋所有主ヲシテ價定事務上ニ立入り及ヒ物件ノ本体及ニ實際ノ形況等ヲ精密ニ尋究シ以テ定メタル通曉ノ意見及ヒ成法中ノ定規ニ依テ是認セル價格ノ確定ニ障害ヲ与フル如キトハ決シテ有リ得セシムベカラズ

第十六條

各家屋及ヒ構内諸建造物ヲ成法上ノ意義ニ從テ價定レ上第九條ヲ参考スベシ以テ其火災危殆ノ等級ヲ吟味確定スルニ際シテモ亦全ク同上ノ規則ニ拠ルベシ

第十七條

凡ソ地方會計廳ニ於テ一千八百二十六年八月二十八日ノ成法第四十八條及ヒ一千八百五十年三月五日ノ官廳新設立條例第四十一條ヲ比較参考スベシ調製スベキ各地ノ火災保險籍ハ順序ノ番号ヲ履ミ殊ニ相成ルベクハ従前ノ番号ヲ受ケ嗣キ一千八

百二十六年八月二十八日ノ成法第四十九條之ヲ調フベキモノ
ナルガ故ニ同會計官ハ能ク注意シテ價定職ニ關シ上第十二條
及ヒ第十三條ノ場合ニ於テハ本縣建築官モ亦共ニ連署スベキ
家屋價定表ニハ其側傍ニ價定ノ番号及ヒ各家屋火災危險ノ分
等ヲ書記シ全ク右ノ順序ニ本ツキ之ヲ編製シ以テ保險籍草定
ノ基礎ト為シ得セムベシ

第十八條

前條ノ表ハ極メテ明瞭正確ニシテ且ツ其調製方ニ於テモ大ニ
簡便ヲ得ベキ為メ豫メ之レニ供セル界紙ヲ交付シ置クベシ但
シ右界紙ハ濫リニ使用セス且ツ其調製セル表ヲシテ浩漉ニ帰
セシメサル為メ各葉ノ側面上唯々一個ノ保險籍記号火災保險
籍ノ調製ニ方テ之ヲ要スル如クヲ書入スルニ止ラス尚ホ一千
八百二十六年八月二十八日ノ成法ニ追加セル保險籍雛形ア号

ノ書式ニ照準シ凡ソ其面上ニ登記セラルベキ丈ケノ番数ハ之
ヲ書込ムベシ

此界紙ヲ用フルニ方テハ先ツ各家屋及ヒ各建造物所有主ノ姓
名ヲ題記シ其下方最初ノ五罪ノミニ登記ヲ為スベシ但シ此登
記ハ火災保險籍ノ番号、家屋ノ記載、火災危險ノ分等但シ上第十
條第一号ニ掲クル寺院及ヒ寺塔ヲ除ク諸壁端ヲ合算シテ定メ
タル代價及ヒ壁端ヲ除キ價定セル代價ノ書入レ之ナリ又最下
ノ五個罪罰ハ先ツ之ヲ明ケ置キ他日保險ニ關シ地方會計廳ニ
於テ爾餘ノ高議ト及ヒタル事件アル時之ヲ茲ニ登記スベシ

第十九條

某地方家屋ノ價定及ヒ分等ヲ成シ了レ其結果証トシ前兩條ニ
記載セル表ヲ調製セル時ハ其地方會計官ハ元ツ大公國同地方
租稅檢査官ト協議ノ上之ヲ須要トスルハ本表中ニ登録セシ

家屋ニ付キ其戸籍上ニ係ル番号ヲモ傍示スルヲ要ス而シテ将来
各新火災保險本籍中ニ於テモ猶ホ此記載ヲスベキハ保險
籍上ニ定ムル番号下ニ註ク久レキニ堪フベキ赤墨ヲ以テ之ヲ
併記シ然ル後速カニ家屋價定及ヒ公等表ヲ公布スベシ

第二十條

此公布ハ一千八百二十六年八月二十八日ノ成法第二十五條第
三十條第三十一條及ヒ第四十八條中ノ規則共ニ一千八百五十
九年五月十三日ノ追加條例第一條及ヒ第五條ニ照準シテ地方
會計官其地ニ就テ之ヲ施行スベシ則テ各家屋所有主ヲ呼出シ
之レニ右價定表ヲ展示シ且ツ本人ノ陳述セント欲スル所モ
ノヲ促シ其高議ハ傍ラニ之ヲ筆記セシメ而シテ其筆記ヲ本人
ニ讀知シ許諾ノ上雙方調印ヲ為スベシ
但各目ノ場台ニ於テ特別ノ事由アリ會計官親テ前項ノ如ク執行シ能ハ

サル時ニ依リ之ヲ出格トシ為メニ依頼ヲ受ケレ區務所若クハ
裁判所ニ於テ同上ノ展示然ルハ側傍ニ於テ之ヲ筆記スヲ為
スベシ而シテ家屋所有主之ニ對シ須要ノ陳述ヲ為ス時ハ筆記
シテコ供書トシ之ヲ本人ニ讀知シ許諾ノ上雙方調印ヲ為シ右
會計廳ニ送達スルヲ要ス

第二十一條

價定結果ヲ公布スルニ方テハ兼テ家屋所有主ニ其價定セラレ
タル價格ノ幾部分一千八百五十一年五月十三日ノ成法ニ本
キ半額三分ノ一四分ノ三六分ノ五或ハ價定ノ全額併ニ諸壁堵
ヲ合併シ或ハ之ヲ除テ保險セシメント欲スルヤノ意存直地
ニ申述セシムベシ一千八百二十六年八月二十八日ノ成法第三
十條及ヒ第三十一條
該人若シ其申述ヲ遲滯スルハ左ノ如ク處行スベシ

第一 其家屋従来当局ノ保管ヲ受ケザリシモノニ係ル時ハ
壁塙ヲ供セ價定價額ノ六分五ヲ以テ之
シ同律第三十條但シ然ル場合ニ於テモ亦凡ソ他局ノ保
ハ之レク為メ復タ存立スベカラザルガ故ニ其有無如何ニ
付キ保險ヲ受クル本人ヨリ明瞭ニ陳述ヲ為サシムベシ一
千八百五十九年五月十三日ノ成法第三條ヲ参考スベシ而
シテ若シ猶他局ノ保險中ニ係ル時ハ当全國火災保險局ニ
於テ行フベキ請合ハ其期經過後初メテ執行スルヲ得ベ
シ
第二 然レモ其家屋従来已ニ当局ノ保險ヲ受ケ来リシモノ
ニ係ル時ハ在来ノ請合高及ヒ壁塙ノ合供若クハ除却トモ
惣テ旧ニ依ルベシ一千八百五十九年五月十三日ノ成法第
五條

之ニ係ル時右家後ノ場合則チ第二項ニ於テ所有主若シ價
定結果ノ展示ヲ受クルニ方リ保險高或ハ壁塙合供ノ事件
若クハ此二者ニ関シ變更ヲ請求スル時ハ其變更上須要ノ
願定及ヒ其執行ノ期限凡ソ保險料ヲ高下スル事ニ関シテ
ハ一千八百五十九年五月十三日ノ成法第六條ノ規則ニ準
拠スベシ
故ニ若シ他ノ保險局ニテ為セシ請合年期中ニ非サレバ凡
ソ保險部分ノ加高及ヒ従来保險セラレザリシ壁塙ヲ更ニ
本部内ヘノ加入等其請求ニ任セ直チニ之ヲ新保險籍ヘ登録
スベシトイハレ其實施ハ翌年ノ歳首ニ至リ或ハ他局
保險満期ノ翌年ニ至リ初メテ之ヲ為スモノトス之レニ反
シテ保險部分ヲ低下シ及ヒ従来保險セラレタル壁塙ヲ自
今其部内ヨリ削除ノ請求ハ決シテ之ヲ即時ニ新籍中ニ登

録セス唯々翌年歳末ニ至リ初メテ変更表中ニ書記スベキ
ノミ尚ホ且ツ家屋賃入自由若クハ之ヲ取リシ債主
ノ許諾ヲ証明セル時ニ限ルベシ

第二十二條

各自價定ノ調替ヲ其家主ヨリ成規ノ期限内ニ同律第二十五條
本地會計官ニ請求セル時ハ該官ハ其請求書ヲ當寮へ進呈シ以
テ裁決ヲ請フベシ同律第二十二條

第二十三條

一千八百二十六年ノ火災保險律第四十六條乃至第五十一條ニ
掲クル規則ニ從テ調製スベキ新火災保險籍ハ家屋價定ヲ行ヒ
シ本年ノ暮迄ニ必ス之ヲ編成シ且ツ其副冊ヲ成規ノ如ク同律
第五十二條當寮へ進達スベキモノナルガ故ニ全價定事務ハ總
テ速カニ成シ了ラフベキヤウ注意スベシ

第二十四條

價定表ノ調製ニ須要ナル保險籍所用ノ印刷界紙及ヒ價定兩工
へ交付スベキ成法关ニ條令ノ抜抄上第三條ニ之ヲ詳ニスハ其
望ミ任セ當寮書記局ヨリ證書ヲ替へ之ヲ下付スベシ

咸密一千八百六十二年十二月一日

大公國撤遜太政官大藏寮

價定兩工へノ義務付與狀

今般全國火災保險局ニ於テ火災保險ヲ為スヘキ為メ家屋ノ價
定及ヒ火難其他凡ソ當局ノ償還ヲ請求スヘキ事由ニ因リ屋宇
ノ全部若クハ一部分毀損ヲ受ケタル時被害ノ高ヲ觀定スベキ
價定工匠トシ貴下ヲ撰奉セラレニ付テハ其下ハ目今成法中
ノ條例及ヒ本職務ニ関シ已ニ公布セラレタル或ハ今後尚ホ交

付セラルベキ規則ヲ精密ニ遵奉レ、價定事務官ノ指令ニ虚心聽
從レ貴下ヘ命セラレタル價定ノ事ヲ行フニ、一ハ極メテ不偏、
鄭重及ヒ注意ヲ專ラトレ正思良知ヲ以テ判定スベキヲ約諾
誓盟セラル、ナラン義務決行ノ間ハ必ス私惠贈遺懇親化譽其
他諸種ノ事由ニ倚拠セズ全ク誠忠至公ノ價定工匠タルニ耻テ
ザル舉措ヲ履行セラル、ナラン

誓詞

15
總テ今私(此處價定職工ノ名アリ)ニ御讀知ノ趣委サニ承領仕候
因テ堅確切實且ツ間斷ナリ遵守スベク段謹テ盟約仕候
今此誓盟ヲ渝ヘザル為メ茲ニ上帝及ヒ諸聖靈ヲ呼ビ以テ之ヲ
表徴ス「アーメン」

